

2020年5月22日

横浜ゴム、2020年度第1四半期連結決算を発表

横浜ゴム（株）の2020年度第1四半期累計連結決算（2020年1月1日から2020年3月31日）は、売上収益が前期比13.6%減の1,291億円、事業利益[※]が同68.8%減の18億円、営業利益が同90.4%減の12億円、親会社の所有者に帰属する四半期損失は3億円（前期は91億円の利益）となりました。

※日本基準の営業利益に当たる指標として設定。事業利益＝売上収益－（売上原価＋販売費及び一般管理費）で算出。

タイヤ事業は、売上収益は前期を下回り、事業利益は販売数量の減少に加えて、生産量減少に伴う製造原価の悪化および北米におけるリコールに関連した在庫整理費用を計上したことなどにより減益となりました。新車用タイヤは、国内では新型コロナウイルス感染症の影響による需要減少から販売が低調だったほか、海外においても各国で自動車メーカーの工場が操業停止になるなど生産調整が発生しており、国内、海外ともに売上収益は前期を下回りました。市販用タイヤは、国内では年初の暖冬の影響により冬用タイヤの販売が低調だったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による消費活動の停滞から需要が減少したほか、海外においても総じて販売が鈍化しており、市販用タイヤ全体として売上収益は前期を下回りました。

MB（マルチプル・ビジネス）は売上収益、事業利益ともに前期を下回りました。各事業において新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、ホース配管事業は、国内外で建機需要が減少したことに加え、海外でも自動車メーカーの操業停止などにより自動車向けが低調で売上収益は前期を下回りました。工業資材事業は、各市況の悪化からコンベヤベルトをはじめ、土木、海洋商品の販売が低調で売上収益は前期を下回りました。ハマタイト事業は、国内では大都市圏の再開発工事中断などが発生したほか、国内外で自動車生産が減少したことから売上収益は前期を下回りました。航空部品事業は官需向けの販売時期がずれたことにより、売上収益は前期を下回りました。

ATGは、農業機械用・産業車両用タイヤを始めとするオフハイウェイタイヤは、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により需要が減少し、売上収益、事業利益ともに前期を下回りました。

2020年度の業績予想は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、当社の事業環境に多大な変化が生じていることから前回公表予想（2020年2月公表）を修正いたします。ただし、現時点では新型コロナウイルス感染症の影響を見通すことが困難であることから、今期の業績予想および配当につきましては未定とさせていただきます。合理的な業績予想の算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

なお、当社は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、機動的な資金調達による手元流動性の積み増し、設備投資計画および経費計画の見直しによるキャッシュアウトの削減を行うほか、役員・理事の月額報酬および管理職の給与の減額など各種対策を進めています。

決算ハイライト

(百万円)

	2020 年度第 1 四半期 (2020.1.1~2020.3.31)	2019 年度第 1 四半期 (2019.1.1~2019.3.31)
売上収益	129,128	149,523
事業利益※	1,819	5,833
営業利益	1,240	12,878
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (▲は損失)	▲ 258	9,127
資本	389,383	392,170
資産	898,425	880,007
一株当たり四半期利益 (▲は損失) (単位：円)	▲ 1.61	56.90

事業別

(百万円)

	2020 年度第 1 四半期 (2020.1.1~2020.3.31)	2019 年度第 1 四半期 (2019.1.1~2019.3.31)
売上収益		
タイヤ	87,410	100,137
MB	24,889	28,858
ATG	15,544	18,861
その他	1,284	1,667
事業利益 (▲は損失)		
タイヤ	▲ 503	1,499
MB	924	1,712
ATG	1,787	2,449
その他	▲ 417	146
消去	28	28

※事業利益 = 売上収益 - (売上原価 + 販売費及び一般管理費) で算出

※2020 年度にセグメントを一部変更したため、2019 年度の「事業別」の数値を昨年公表値から修正しています。

このリリースに関するお問い合わせ先
 横浜ゴム (株) 経営企画部 広報室 担当：赤池、山崎、岡
 TEL : 03-5400-4531 FAX : 03-5400-4570